

特集

平戸で学び 平戸で育つ

本市には「猶興館高等学校」「北松農業高等学校」「平戸高等学校」と、3つの県立高等学校がある。
少子化が進む中でも、3校とも特色ある教育目標を掲げ、生徒たちは夢の実現に向かって充実した学生生活を送っている。

今月号では、市内の3校を紹介する。

加速する少子化の波

本市はさらに顕著に

わが国の人口は、平成17年を境に減少傾向に入り、少子化問題は全国的な問題で、今後もさらに減少することが予想されています。本市は全国平均よりも少子化のスピードが速く、中学校の生徒数も10年前には1,414人だったのが、昨年度は869人と約40%も減少しています。(図1)

このような状況の中、市内にある3つの高校も生徒の確保には苦勞しており、3校への進学率はここ数年60%前後を推移(図2)していますが、生徒数は必然的に減少しています。定員割れの学科が出てき

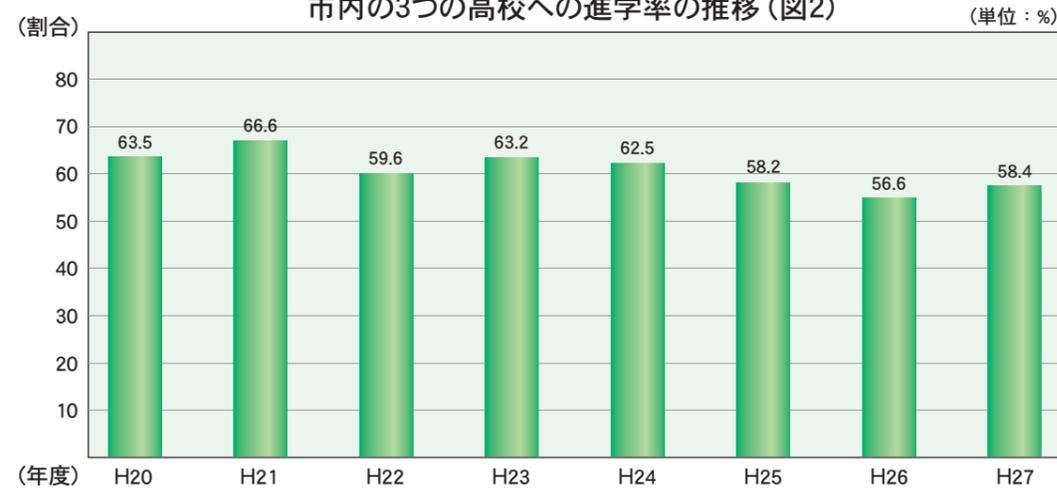
ているのが現状です。このまま生徒数が減少すると、学科や学級数が減るだけではなく、将来的には統合や廃校などの可能性もでてきます。また、学科が少なくなれば、職業選択の幅が狭くなり、子どもたちの将来に大きな影響を及ぼします。

高校は、ただそこに存在するだけでなく、地域のシンボルとして長年愛され親しまれてきました。また、市民の皆さんの多くは3校の卒業生であり、母校への愛着は人一倍あると思います。平戸市の未来のためにも、3校は存在し続けなければならないのです。

市内の中学校の生徒数の推移(図1)



市内の3つの高校への進学率の推移(図2)



3校の卒業生に聞く母校のいいところ!

市内には3校の卒業生が大勢活躍しています。今回は市内で働いている卒業生に
母校についてインタビューしてきました。

猶興館高校

学校の雰囲気がよく、先生たちもフレンドリー

猶興館高校は、勉強ばかりしているイメージでしたが、実際入ってみたら、部活動やさまざまな行事も充実していて、勉強以外も打ち込める環境が整っていました。もちろん勉強もすごく集中してできます。また、生徒間も仲が良く、先生たちはいつも生徒のことをきちんと考えてくれましたし、フレンドリーで相談しやすい雰囲気を作ってくれていました。

現在は、幼稚園のころから夢だった消防士として働いていますが、すごく充実していてやりがいを感じています。皆さんも、猶興館高校で夢をかなえるために頑張ってみませんか。



まつお しょうへい
松尾 勝平 さん (紐差町出身)
消防署中津良出張所勤務
平成26年度卒業

北松農業高校

高校で学んだことがすごく役立っています

家が繁殖牛を飼っていて、将来は跡を継ぐと決めていたので迷わず北松農業高校に進学しました。他の高校とは違い、農業以外にも福祉や食品関係などいろんな専門的な学科があります。私は、農業科学科の機械コースでしたが、実習の時は先輩たちから優しく教えてもらえましたし、先生たちは怖い時もありましたが、生徒たちのことをよく見ていて、親切に指導してくれました。

現在の仕事に就いて、今になって高校で勉強したことが役に立っていると感じます。北松農業高校で専門的なことを学んでみませんか。



もりた やすなり
森田 泰成 さん (田平町出身)
長崎県肉用牛改良センター勤務
平成20年度卒業

平戸高校

生徒の夢を先生たちがサポートしてくれます

高校卒業後は就職すると決めていたので、オープンスクールのときに就職に役立つ資格が取れると説明があった平戸高校を選択しました。

先生たちは生徒思いの熱心な人ばかりで、私も授業外の資格を取りたいと先生に相談したら、放課後の補習と一緒に付き合ってくれて、そのおかげで資格を取ることができました。また、先輩たちも後輩の面倒見がよく、後輩たちは先輩たちを慕っていて、いい関係ができていました。

平戸高校は、先生たちが一人一人に応じた指導をしながら、進学・就職問わず自分の夢をサポートしてくれるので、おすすめです。



いわもと
岩本みのり さん (敷佐町出身)
大島小学校勤務
平成25年度卒業

市内の高校でも

将来の夢はかなえられる

市内には平戸北部地区に「猶興館高校」、平戸中部地区に「平戸高校」、田平地区に「北松農業高校」と3つの高校があります。3校は、それぞれ特色ある独自の教育目標を掲げ、進学や就職と生徒の夢の実現に向け、市外の高校に負けない素晴らしい充実した指導体制が採られています。しかし、前ページ図2のとおり約40%の生徒は市外の高校に進学しています。もちろん有名進学校やスポーツ強豪校、工業系や水産系などの専門的な高校を志望する生徒は市外の高校に行くこともあるでしょう。ただ、3校の詳しい

魅力や教育方針を知らずに判断しているケース、またイメージだけで判断しているケースもあるのではないのでしょうか。遠くから聞こえる部活動の元気のよい大きな声、地域のボランティア活動で一生懸命頑張る生徒の姿など、今当り前にある風景は、地域の活力となって地域を明るく元気にしています。地域から子どもが少なくなることは非常に寂しいことです。平戸でも、将来の夢の実現に向けて頑張ることができると感じます。今回は3校の特色、魅力を紹介しましょう。

Let's follow our dream in Hirado

平戸を特別な場所としてとどめてほしい

市内の3校は、特色ある質の高い教育環境が整っています。また、各学校とも学問だけでなく、地域と密着しながらボランティアや職場体験などさまざまな活動を行っています。以前、ある高校の校長先生が「学校を卒業し、就職したあと転職でふるさとに帰ろうと決意するには、地元に戻ってからの生活のイメージができることが大切である。そのためには、高校生のとき実際に平戸に将来性を感じさせるような、若者の暮

らしを見たり体験したりすることがとても重要だ」と話していました。3校の地域と密着した取り組みもあり農業や漁業、加工業などは若者が徐々に平戸に帰ってきていると聞いています。目指す夢は人それぞれで限定はできませんが、中学生には一度市内の3校に目を向けてもらいたいですね。市内外から多くの子どもたちが平戸の高校で学び、平戸を特別な場所として、心にとどめてほしいと願っています。

Interview



平戸市教育長
おがわ しげのぶ
小川 茂敏

孟子の教えに由来する
自立・自発を説く由緒正しき伝統校

猶興館 高等学校

平戸港を見下ろす平戸城の麓に
立ち、県内の公立高等学校の中で
は一番古い歴史を持つ。
徳・知・体の調和のとれた社会
に有為な人間形成を目指す。

きめ細かな指導体制

1学級当たりの生徒数は22
から35人と少人数で、大規模
校の学級と比較すると一人一
人に対してきめ細やかな手厚
い指導体制が整っていること
で、生徒の夢の実現に向けて
しつかりサポートできます。

また、先生たちも40歳以下
が約7割と若い先生が多く、
ベテランの先生ともうまくバ
ランスがとれ、理想的な指導
が行われています。若い先生
たちは、熱意と体力があるの
で、生徒にとことん向き合い、
学習指導はもちろん、放課後
や休日の部活動指導に至るま
で、熱心にそして多くの時間

を生徒と向き合う時間に費や
しています。生徒数は少なく
なってきましたが(図3)、
より充実した学校生活が送れ
るよう、毎年教育方針を見直
しながら質の高い指導ができ
る体制を整えています。

部活動も充実

勉強ばかりと思われがちで
すが、部活動にも力を入れて
おり、競技力や文化力を高め
心身を鍛練するため全員入部
制にしています。運動部13、
文化部8の計21団体があり、
県や九州はもちろん全国でも
上位に入賞する部も出てきて
います。

生徒数の推移(図3)

年度	人数
平成19年度	581人
平成20年度	566人
平成21年度	547人
平成22年度	512人
平成23年度	487人
平成24年度	474人
平成25年度	459人
平成26年度	414人
平成27年度	361人
平成28年度	339人

*Let's open the door to the future
at Yukokan High School*

夢や志の実現に向けて生徒、職員が一致団結

本校は、県下で最も歴史のある伝統校です。
明治13年の創立以来、県北の中心的な学校と
して、多くの有為な人材を輩出してき
ました。地域の拠点校として皆さんの
期待に応えられるような学校であるこ
とを目指して努力を続けています。



猶興館の頭文字をアルファベットで
表すと「YKK」となります。それは「Y=
夢を、K=必ず、K=かなえる」と意味します。猶興
館の生徒は無限の可能性を持っており、夢や志

は進路志望や部活動でも高く掲げています。一
人一人の思いを大切に、夢や志の実現に向け
て具体的に努力すること、あきらめず
に継続することの大切さを指導していま
す。また、あいさつや掃除の徹底など
も教育の柱として大切にしています。

本校は、生徒、職員ともに明るく元
気があり、部活動や体育祭なども盛ん
な学校です。これからも地域の学校として地域
に貢献できるよう頑張っていきます。

猶興館高等学校 校長 林田 亮



県内屈指の伝統校

猶興館高校は、松浦家第
27代当主松浦詮公が明治13
年、藩士などの子弟教育と郷
士の発展のために創立した猶
興書院が始まりです。

詮公は校名の猶興を、孟子
の教え(猶興出典)に求めまし
た。猶興出典は「豪傑の士の
気風である自立自発の精神」
を説いたもので、これこそが
建学の理念となっています。
この孟子の教えを胸に、猶興
館高校の生徒は、日々夢の実
現に向けて自己研鑽を積んで
います。

県内屈指の伝統校として1
36年の歴史の中で培われて
きた教育方針は、県北の核と
なる地域に信頼される学校づ
くりにも、徳・知・体の調
和のとれた社会に有為な人間
形成を目指しています。

おいでよ、我が校へ！
一緒に思いでを作ろう

在校生が語る 猶興館高校の魅力



川上 智輝 さん
普通科 2年

入学する前は、勉強ばかりのイメージでした。勉強も一生懸命頑張っていますが、他の進学校と違い行事も多く、勉強以外もたくさん楽しめます。その他にも、市が実施しているオランダとの交流事業に猶興館も参加していて、私も交流事業に参加しオランダに行ってきました。外語系の大学を希望しているので、貴重な経験ができました。私たちと共に進学を目指しながら、楽しい高校生活を送りましょう。



立石 博信 さん
普通科 1年

猶興館高校は、勉強したい人にはもってこいの環境です。しかし僕みたいに「勉強ばかりだとちょっとつらいな」と思う人も大丈夫です。クラスマッチや体育祭、猶興祭などいろんな行事があり、クラスや学年を超えて協力し合うので、大きな達成感が得られます。朝の補習や、勉強合宿など大変なこともあります。楽しく充実した学校生活が送れますよ。

主な進学・就職先

進学先

九州大学、福岡教育大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、佐賀大学、九州工業大学、同志社大学、近畿大学、福岡大学、西南学院大学、中村学園大学、長崎純心大学、長崎外国語大学、長崎女子短期大学、佐世保市立看護専門学校など

就職先

長崎県警、日本郵便(株)、平戸市役所、平戸市消防本部、海上自衛隊など



図書館は、図書委員手製の新聞や、おすすめ図書紹介コーナーも充実していて、生徒が集う楽しい場所となっている。



体育祭の3年生学級対抗による「スター誕生」の様子。さまざまな行事を通して、生徒の団結力や絆が深まる。



生徒会活動の様子。猶興館は積極的な生徒が多く、活発的な意見が飛び交う。生徒会は26人と大所帯だ。

仲間と深まる絆

勉強以外にも、生徒を主体とする行事も積極的に取り組んでいます。

歓迎遠足やクラスマッチ、猶興祭(体育祭・文化祭)、合唱コンクールなどがあり、特に猶興祭は他の進学校に比べて時間をかけて生徒・先生が

一体となって準備するので、この期間が、1年間の中で一番盛り上がりがあります。これらのさまざまな行事を通して、クラスの団結が強まり、仲間との絆がより一層深まります。勉強ばかりでなく、さまざまな行事とをバランスよく行うことで、生徒の肉体的な成長を醸成しています。

磨かれる高い研究能力

猶興館高校は、普通科と理数科の2学科あり、理数科については県北地区の学校で唯一設置されています。

理数科は、1年から3年まで科学的思考力を高めるような活動に取り組んでいます。1年生の時は、九州内の大学に出向き、さまざまな研究にふれ、最先端の技術を体験します。2年生は、自ら課題テーマを選択し、数人でのグループ研究に取り組みだし、実験や現地調査を地道に積み重ねていきます。3年生になると、これまでの課題研究の成果を校内で発表し、優秀な

研究は県大会・全国大会に出場することができます。理数科が開設されて13年の間に、全国大会で2度の最優秀を受賞するなどレベルの高い研究を行っています。このように3年間の活動を通して、理数系学部への進学に必要な力を高め、卒業生の多くが大学へ進学しています。

学校全体でも高い進学率を誇り、毎年約95%の生徒が大学、短大および専門学校などに進学しています。この傾向は10年以上続いていて、目標実現に向けた生徒自らの努力、先生たちの熱心なサポートが相まって、高い進学率となっています。



理数科2年生の課題研究の様子。自らの興味関心に基づいた課題テーマを選択する。少人数のグループで行動し、自発的に研究に取り組むことで、積極性や協調性、研究を進める力を養う。



YUKOKAN
HIGH SCHOOL

県北地区唯一の理数科 理数系大学への高い進学率を誇る



県内2番目の農業高校
3学科で魅力的な教育活動を展開

北松農業 高等学校

田平町の「田平天主堂」近くにある
県北地区唯一の農業高校。

地域とのつながりを大切にしながら、新しい時代に活躍できる人材育成を目指す。

高い就職率

これまで創立以来約1万人以上が卒業し、農業だけでなくさまざまな分野で活躍しています。また、市内の他の高校に比べて、進学しても平戸に戻ってくる割合が高く、地元でも多くの卒業生が働いています。

農業高校の授業は普通校と違い「国語」や「数学」などの授業のほかに、学科ごとに専門の先生たちの指導を受けながら、より特色のある勉強ができます。

また、就職に役立つ資格を取ることのできるため、就職率はほぼ100%と高く、即

戦力として特に県内企業への就職が多く見られます。

地域にも貢献

地域との交流にも力を入れて取り組んでおり、各種ボランティア活動や介護施設での実習などを行っています。昨年「アニマルカレッジ」と題し市内の小中学生を招き、生徒が先生役となつて各種動物とのふれあいや、ヒツジの毛刈り、サツマイモの苗植えなども開催しています。また、9月からふるさと納税の返礼品の開発プロジェクトも始動するなど、さまざまな取り組みに挑戦しています。

生徒数の推移(図4)

年度	人数
平成19年度	445人
平成20年度	456人
平成21年度	455人
平成22年度	460人
平成23年度	448人
平成24年度	443人
平成25年度	413人
平成26年度	394人
平成27年度	394人
平成28年度	360人

*Let's open the door to the future
at Hokusyonogyo High School*



幅広い専門教育で、高い就職率

本校は、県北地区唯一の農業高校として、地域農業を支えるリーダーや、社会の即戦力となる人材の育成を中心に、幅広い専門教育を行っています。我が校の教育は多くの企業から評価され、就職はほぼ100%を継続、特に県内就職に強さを発揮しています。また、進学も農業分野にとどまらず、看護系や保育系など多岐にわたって進路実現を果たしています。



さらに、今年度は「夢の実現!! ~あいさつから

始まる地域との交流~」をスローガンに掲げ、地域連携により一層力を入れています。ふるさと納税とのコラボ事業や平戸黄ユリの保護など産・官との協力、積極的なボランティア活動による地域貢献など、生徒たちの学習成果と若さあふれるエネルギー、そして「わくわく」させる学びの楽しさや未来への期待感を地域に還元しながら、皆さんと共にこれからのまちづくりに貢献していきたいと思ひます。

北松農業高等学校 校長 行成 啓介

さらに魅力的な学科

北松農業学校は、昭和20年の戦後の混乱期に、県内で2番目の農業高校として誕生し、今年で創立71年目を迎えます。

「誠実・自主・実践」という校訓の下、高等普通教育と農業・家庭に関する専門教育が学べ、道徳教育を通して、誠実な人間性と自然を大切に心を培っています。また、我が国および郷土の発展に貢献し、国際社会に通用する調和のとれた人間育成を目指しています。

本年度の入学生から「生物生産科」「食品流通科」「生活科学科」の特色ある3学科体制となり、新たな北松農業高校として、さらに魅力的な教育活動を展開し、社会に通じる人材を育てています。

おいでよ、我が校へ！
一緒に思い出を作ろう

在校生が語る 北松農業高校の魅力



まさやま だいき
増山 大貴 さん
農業科学科 2年

将来、家族と一緒に和牛を育てていきたいという目標を持って北松農業高校に入学しました。

動物科学コースを選んだので、動物に関する学習や実習が増えて楽しいです。

農業の科目は教科書だけでなく、実習で動物や植物の世話をしながら学ぶことができます。動物や植物が好きな人は、生物生産科に来てください。



にしざわ なつの
西澤奈都乃 さん
生活科学科 2年

2年生から福祉看護コースで、介護職員初任者研修を受けています。来年は施設実習も始まるので、今、しっかりと基礎知識を勉強しておこうと思います。

将来は、平戸で保育士になるのが夢です。北松農業高校は実際の施設に行ったり、校内でも体験しながら学ぶことが出来るので、体を動かすことが好きな人におすすめです。



今月開催される「ねんりんピック長崎2016」の開会式会場を装飾する花。当日にきれいに咲くように心をこめて育てている。



全国でも数少ない女子チームの平板測量競技。県下の農業高校でトップの成績を誇り、全国一を目指す。



5月の連休時期に受粉したメロン。生徒たちが大切に育てたメロンは7月に大きく実り、収穫を行った。



農業科学科動物コースの3年生の実習の様子。おいしい肉として出荷されるように愛情を持って育てている。この実習を通して「生命の尊さ」についても学んでいる。



HOKUSYONOGYO
HIGH SCHOOL

魅力ある3つの学科で 基礎から応用まで専門技術が学べる

将来役立つように

本年度の入学生から「生物生産科」「食品流通科」「生活科学科」の3学科になり、基礎から応用まで対応できる魅力ある指導体制が整いました。

「生物生産科」は、将来の農業後継者を育て、地域のリーダーとして活躍できるための農業の志と生業が学べる学科です。「食品流通科」は食のスペシャリストの育成を目指し、農作物の生産・食品の製造から、流通、販売まで「食」の産業が学べます。「生活科学科」は、時代と共に変化するライフスタイルに対応

生命に学ぶ

平成24年に開催された「全国和牛能力共進会」で、長崎和牛が日本一となったことで、長崎県産の和牛が全国から注目されています。

北松農業高校では、農業科学科動物科学コースの2・3年生が授業を通して、和牛の

し、本当に豊かな生活を考え、形にしていく学習を目指しています。

3学科に共通しているのは、「人」に優しい知識や技術を学ぶということ。これからの長い人生を生き抜いていくうえで必要な「人生の礎を築く学び」を展開し、先生たちが生徒一人一人にきちんと向き合い、手厚くサポートするだけでなく、自らの力で自然の恵みから学びとることが出来るような指導が行われています。また、地域を学習のフィールドに、地域の人たちとの積極的な交流を通して、ふるさとへの活性化に貢献できるように努めています。

飼育を学んでおり、農業高校のインターハイともいえる「長崎県学校農業クラブ連盟年次大会」では、平成27年に「家畜審査競技」で最優秀を獲得しました。

生徒たちは、牛以外にも稲や野菜、果物やにわとりが産んだ卵など、多くの「生命」を教材に学んでいます。

主な進学・就職先

進学先

長崎国際大学、長崎短期大学、佐賀女子短期大学、長崎県立農業大学校、佐世保高等技術専門学校、佐世保医師会看護専門学校など

就職先

山崎製パン(株)、敷島製パン(株)、アリアケジャパン(株)、松浦水産(株)、ニッチツ(株)、住商エアバックシステムズ(株)、長崎部品(株)、青洲会病院、平戸商工会議所など

総合学科として
進路に沿った専門的学習体系を構築

平戸

高等学校

平戸島の中心に位置した、総合
学科の学校である。

「地域に根ざし 道を拓く」をス
ローガンに、地域を愛し多様な社
会に対応できる生徒を育成する。



本物の学びを追求

平戸高校は、昭和24年に猶興館高校の定時制分校として紐差町と田代町に設置されたのが始まりで、昭和50年に2校が統合され現在に至ります。「地域に根ざし 道を拓く」をスローガンに、生徒が地域に学び、地域とともに育つことを目標にしています。さらに今年度は「生徒の安心・安全の確保」「授業力の向上」「生徒数の確保」の3つを特に重点的に取り組んでいます。また「平戸高校フレミング・マネジメント」の理念の下、授業力のアップを学校全体の方針として強化するように努めています。

このような取り組みを通して、社会に有為な人間として明るくたくましく積極的に生きる人材を育てています。

授業改革で学力向上へ

平戸高校では、9月から実習以外のすべての授業で、全国でも珍しい「コの字型授業」を実践しています。

東京大学名誉教授である佐藤学先生が考案した「学びの共同体」の理念と方法論をもとに、今まで以上に生徒全員が前を向いて授業を受けるのではなく、机をコの字に配置し、ペアをつくり「聞きあい・学びあい」の関係を作りながら、グループとして課題に取り組みます。また、先生たちも教科の枠を超えて授業研究会を定期的に行ない、チームとして全体の授業力向上を

図っています。

生徒数は10年前の半分以下と少なくなっていますが（図5）、生徒と先生が一つになって魅力的な学校づくりが行われています。

地域と一緒に

ボランティア活動や地域の行事にも積極的に参加しています。総合的な学習の時間では「地域を知る、地域に学ぶ、地域を支える」を合言葉に、地域に向いて海岸のごみ拾いや掃除などのボランティア活動、また、各種イベントに参加し、地域と一緒に活動した取り組みを行っています。

生徒数の推移（図5）

年度	人数
平成19年度	273人
平成20年度	261人
平成21年度	252人
平成22年度	233人
平成23年度	199人
平成24年度	172人
平成25年度	148人
平成26年度	133人
平成27年度	128人
平成28年度	114人

*Let's open the door to the future
at Hirado High School*

「本物の学びを追求する授業」を実践

当校は平戸・松浦地区唯一の総合学科の学校です。総合学科とは言わば「生き方を学ぶ」とです。キャリア教育を通して自分の生き方を探り、自分に合った系列や授業を選択することで、自分の長所を伸ばします。

昨年度の進路内定率は100%でした。一人一人の個性や適性に合わせ、ていねいな指導を行い、希望を叶えるお手伝いをしています。進学先は大学や短大、看護学校な



ど多種多様です。就職は、トヨタ自動車(株)や山崎製パン(株)などの大企業からも例年求人があり、今年の求人数は約700社です。

今年度は「本物の学びを追求する授業」づくりを教育活動の中心に置いています。机をコの字型に配置し、生徒の聞き合い・学び合いの関係を作りま「心を静かにし、隣の息づかいを感じながら、分からないことをバネに、本物に迫る」これからの平戸高校にご期待ください。

平戸高等学校 校長 林田 誠一

おいでよ、我が校へ！
一緒に思いでを作ろう

在校生が語る 平戸高校の魅力



やまだ みさき
山田 美咲 さん
人文メディカル系列 3年

平戸高校では、上級学校訪問や企業見学、さまざまな職業の人を招いての講義や体験ができるジョブガイダンスなどがあります。自分の将来について3年間で就職から進学までの進路選択ができます。

私は看護師を目指しているので、人文メディカル系列を選択しました。少人数授業で生徒一人一人に対して指導してもらっています。平戸高校で本当によかったと思っています。



こんどう たくま
近藤 拓馬 さん
情報ビジネス系列 2年

高校卒業後は就職しようと考えています。情報ビジネス系列では、社会に出て即戦力になれるようパソコンや電卓、簿記などを学ぶことができ、資格も取得できます。また、部活動では大好きな野球に打ち込むことができます。

少人数ですが、多くの実戦経験を積むことができ、学校行事などはみんなで盛り上がります。毎日、充実した高校生活を送っています。



情報の授業風景。情報処理や簿記など多くの資格が取得でき、就職の際には即戦力として活躍できる。

主な進学・就職先

進学先

長崎県立大学佐世保校・シーボルト校、中村学園大学、国士舘大学、中村学園大学短期大学部、佐賀女子短期大学、長崎短期大学、長崎短期大学佐世保市立看護学校、名古屋市立中央看護学校など

就職先

トヨタ自動車(株)、マツダ(株)、ハウステンボス、山崎製パン(株)、長崎県職員教育事務、福岡県警、神奈川県警など



子ども文化の授業風景。保育士を目指す生徒向けの自由選択科目で、園で使用する人形劇や絵本などについて製作・研究をする。



コの字型の授業風景。県内でも2校しか実施していない授業形態。集中力アップと学び合う姿勢を育む効果が期待できる。

異文化との交流も
部活動やさまざまな活動も盛んで、サッカー部やソフトテニス部は県大会でも活躍しています。吹奏楽部は、市内のイベントで演奏したり、世界的指揮者西本智美さんが来平した時は歓迎セレモニーで演奏するなど、活躍している。

希望の進路を選択
平戸高校は、県内でも8校しかない「総合学科」の学校です。2年生になると自分の進路に合ったコースを「人文メディカル系列」「情報ビジネス系列」「福祉生活系列」の3コースの中から選択します。将来の進路の選択肢が広がるのが特徴です。
「人文メディカル系列」では、授業以外でも補習や学習会を積極的にを行い、大学や短大、専門学校など上級学校進学に必要な学力を身に付けることができます。「情報ビジネス系列」では、社会に出て即戦力になれるよう、パソコンや



福祉の実習風景。器材が充実した施設で実践的な実習ができる。介護職員初任者研修ができ、福祉に関する職業への就職に有利となる。

国際交流にも力を入れており、毎年タイからの留学生を受け入れたり、市内の団体が受け入れているアメリカの高校生と交流したりと、国際感覚を磨いています。

簿記、会計など商業系の科目を中心に学び、数多くの資格を取得することができます。「福祉生活系列」では、器材が充実した施設で、社会福祉や介護など福祉全般を学ぶことができ、施設実習で地域の介護施設を訪問し、コミュニケーション能力の向上を目指すことができます。
授業や実習については、少人数で行われており、先生たちも生徒に対してきめ細やかな指導ができるため手厚いサポートができ、生徒全員に輝けるチャンスがあります。そのため進路内定率は100%と、県内でもトップクラスを誇っています。



HIRADO
HIGH SCHOOL

少人数授業によるきめ細やかな指導で
生徒全員に輝けるチャンスが待っている



私たちは待っています

一緒に未来を創造する君たちを



平戸の高校は、3校とも少人数制の授業を行ない、大規模校では経験できないきめ細やかな指導体制が整えられています。「平戸で学び、平戸で育つ」現在の高校生のように、素晴らしい環境の下、青春時代を平戸の高校で謳歌しませんか。未来と一緒に創造する人材を待っています。

3校の取材を通して印象に残ったのが、生徒の元気よさ、校長先生をはじめとする先生たちの情熱、それによって感じられる学校全体の勢いでした。

少子化が進む中、高校の生徒数も少なくなり、学校の元気がなくなっているのではと心配していましたが、取材当日学校に入った瞬間、生徒から受けた元気のいいあいさつで心配も吹き飛びました。さらに取材を進める中で目の当たりにした、先生たちの生徒に対する熱い思い、それに応えようとする生徒のまなざしに、無限の可能性を感じました。

3校の取材を通して印象に残ったのが、生徒の元気よさ、校長先生をはじめとする先生たちの情熱、それによって感じられる学校全体の勢いでした。

3校はこれまで紹介したように、独自の特色ある指導体制を採っており、3校とも生徒の目標達成に向かって、学校全体が一致団結していました。部活動や各種行事、地域活動も活発に行われていて、勉強以外の活動にも積極的に取り組んでいます。

また、平戸市と姉妹都市のオランダ王国ノールトワイケルハウト市の高校と短期留学に3校の生徒が一緒になって参加し、お互いの国の高校生を交互に派遣し交流するなど、国際的な視野を持つための取り組みも行われています。

無限の可能性

さまざまな取り組み



1_実習の様子①=北 / 2_体育祭の応援合戦①=猶 / 3_授業の様子=猶 / 4_服飾の授業①=平 / 5_体育祭の応援合戦②=猶 / 6_ソフトテニス部=平 / 7_授業の様子①=北 / 8_授業の様子=平 / 9_ダンス同好会=猶 / 10_授業の様子②=北

11_実習の様子②=北 / 12_牛の餌やり=北 / 13_女子バスケットボール部=猶 / 14_吹奏楽部=平 / 15_実習の様子③=北 / 16_選択科目の授業=平 / 17_サッカー部=平 / 18_課題研究①=猶 / 19_空手道部=猶 / 20_服飾の授業②=平 / 21_卓球部=北 / 22_課題研究②=猶